



こんにちは

日本共産党市会議員

<議会報告>

# 玉本なるみ

です

連絡先：日本共産党北地区委員会

☎075 - 432 - 3261

2017年2月①号

## 青年の切実な声が次々・・・

2月5日に開催された北区上京区の日本共産党の新春のつどいで、**若者とこくた恵二衆議院議員の対談**が行われました。まず、大学4回生の男性は、「毎月8万円の奨学金を借りて、学んでいた。4月からは大学を卒業し就職するが、有利子の奨学金だったため、約500万円の返済を今後していかななくてはならないことへの負担感がある」。保育士として働く女性は「保育士になって1年目、常勤職員の枠が少なく、非常勤として働いており、常勤職員として働きたいが、いつ常勤になれるかわからず、とても不安。職場は人手が足りているかと言えば、毎日とても忙しい状況」。大学2年生の男性からは「野党共闘に期待をしているが、国会対策委員長のこくたさんだからこそその話を聴きたい」と要望も出されました。

こくた衆議院議員からは、日本共産党が高い学費を今の半分に減らしていくことを提案していること。奨学金は運動や国会の論戦で、安倍政権に給付制の奨学金を作らせることができた。しかし、大学生の約2%程度を対象とするもので不十分であり、充実する必要があると述べました。

野党共闘を進めている苦労話では、昨年12月25日の京都駅前での合同街宣でも、開始の15分前でも、民進党の松野議員には「今からでもやめといた方がよい」というメールが入るなどの状況があったが、実現できたとのこと。国会対策委員長を20年務めてきたこくた衆議院議員ならではの活躍ぶりも紹介されました。

青年が希望をもって、学び、働ける社会の実現に向けて頑張ろうという企画になりました。



右3人が青年。左がこくた衆議院議員

## 敬老乗車証を守ろう！ 署名の提出 合計 2万9792筆に！

粘り強く取り組んでこられた敬老乗車証を守ろうという署名の提出、京都市との懇談は9回めとなります。

昨年10月の一か月に取り組んだ「敬老乗車家計簿調査」には1000人を超える方々の協力があり、貴重なデータとなりました。共通しているご意見は「敬老乗車証制度に感謝している」ということ。「京都市が提案している1回乗るごとに、100円程度の負担ということになると、利用を控えざるを得ない」ということです。敬老乗車証の利用目的の一番は余暇活動で、次いで買い物となっており、経済的負担が増える

と、真っ先に削ることになります。懇談で、今年の9月の敬老乗車証の更新はどうかと聞かれる中で**京都市は、「詳細の計画案はまだ、提案できない状況ではない」と**回答しました。運動の成果です。

敬老の精神で作られた敬老乗車証制度を守るために引き続き市民の皆さんと力を合わせて頑張ります。

署名を受け取る京都市保健福祉局担当局長(左)



## つぶやき：児童館設置をめぐる論争

現在、教育福祉委員会では児童館未設置学区への子育て機能充実・拡充を願う請願が出されており、議論してきています。京都市が児童館の設置数は130館と決め、達成しているから、これ以上作らないと決めていることに矛盾があります。必要な地域に対して、作ればよいことです。それを他の会派の議員からは「希望は児童館だが、できませんよと話している」というのです。市民の願いを議員の方から無理というのではなく、京都市の児童館設置の計画を改善させることが必要です。

京都市が自殺を減少させるため自殺対策推進計画案を発表した。基本理念は「市民一人ひとりが、かけがえのない『いのち』を大切にすることを生きたる力を育むとともに、人と人のこころがつながり、ともに支え合うまち・京都をつくります」としています。皆さんどう思いますか？私は自殺の問題を心の問題にしていくように感じ、しっかりと具体的な指摘しました。また、具体的な対策として、就職活動がうまくいかず、就活うつになったり、LGBT 同性愛者や性同一障害などの性的少数者の対策がないことを指摘し、充実を求めました。

自殺に追い込まれる方々を必死で食い止めようとするやる気をもっと、しっかりと取組みする必要があります。

3月13日まで、案に対して意見募集をされます。ぜひ、ご意見を挙げてください。

京都市自殺対策推進計画

アンテナ



